



＊第40回＊

武村 紀子

大阪大学

女性の幸せって なんだろう？

大学生として大阪大学に入学し、卒業後もそのまま就職。十数年間大阪大学に居座り続けています。その間、研究室を転々とし、楽しい仲間、楽しい研究に出会うことができました。優柔不断で計画性がなく、なんとかなるさといつも楽観的な私ですが、2児の母として、カッコいい母ちゃん目指して頑張っています！

子供の頃

子供の頃の夢は、お嫁さんになってローソンのおばちゃんになるという、キャリヤウーマンの予感は一切しない、普通の女の子でした。この頃の妄想は、意外と現実的で、28歳で結婚して、20代で第一子を出産し、全部で3人の子供を生む、といったものでした。算数と理科は好きでしたが、とにかく国語と社会がかなり苦手で、理系が得意というより文系がダメ、という消去法的リケジョでした。ものすごい活字アレルギーで本どころか漫画もろくに読めない子で、読書感想文に選ぶ本もいつも絵本でした。

女子校時代

基本的に流されやすい性格の私は、姉が通っていたという理由で、中学から私立の女子校に進学しました。女子校ならではのスキンシップ溢れる幸せな毎日。高校に進学すると、理系と文

系を選択しないとイケないということで、やっぱり消去法で理系を選択。女子校だからか、理系：文系の比率はほぼ1：1で、リケジョが希少という感覚はまったくありませんでした。

この頃に編み物、特にあみぐるみを作るのにハマリ、よく徹夜で編み物をしていました。だんだん編み図を見なくても、なんとなく思った通りの形が編めるようになり、編み物の原理を理解した気分になりました。1本の毛糸からさまざまな形を作り出せる技術、こんなすごいこと誰が考えたのだろう、と感銘を受けたのを覚えています。

高校を卒業したら大学に行こうと決めていましたが、何学部に行くかまったく考えていなかった私。大学の学部説明を読んでもいまいち実感がわかないし、何が面白そうかもわかりませんでした。優柔不断で全然決められないので、深く考えるのを止めることに。編み物を通して知った「モノ作りの楽しさ」、これだ！と、「モノ作り＝工学部」という短絡的な発想で、工学部の機械系を志望することに…（大丈夫か？私…）。

男子校へ入学

いざ工学部に入学して、驚愕の事実が発覚。ちゃんと下調べもしないで適当に学部を選択したのもいけないのですが、ここは男子校か？！と言わんばかりの男の数。女性は5%もいませんでした。中高6年間を女子校で過ごし、男子の記憶は小学生で止まっていたため、同年代の男性の衝撃なおっさんぶ



子供のために作ったあみぐるみ作品
（上：くまさん、下：ケーキ、ドーナツ、おにぎり、アイスクリーム）

りに苦悩の日々を1年ほど過ごしたことを覚えています。でも、1年後には、完全に開き直り、すっかり男子校に馴染んで、飲酒・麻雀・釣りといった健全な男子学生の生活を送っていました（笑）もちろん数少ない女の子と料理や手芸、ひたすらおしゃべり、といった女の子らしい遊びもして、一度で二度おいしい生活を満喫していました。

研究室配属

学部4年生になると、研究室に配属されるのですが、どの研究室にしようかいろいろ見学してみるも、説明を聞いてもいまいちよくわからない…ということで、とりあえず女子学生の数で研究室を決めちゃいました。私の持論

†大阪大学 データビリティフロンティア機構
"Wonder What Women's Happiness Is" by
Noriko Takemura (Institute for Datability
Science, Osaka University, Osaka)



として、「誰かが面白いと思うことは、やってみたらきっと私も面白いだろう」、「自分が選んだ道はきっと正しい（自分が選ばなかった道を知ることはできない）」という考えがあったため、選択の場面では、いつも適度に楽観的になんとか決めていました（深く考えると決められなくなるし…）。でも、基本的に後悔はしません。

学生の頃に取り組んだテーマは、人物追跡のためのカメラのパスプランニング。思ったとおり、やってみるとなかなか楽しい！

博士課程へ進学

工学部では大学院に進学し、修士号取得後、企業に就職、というのが主流の進路。博士課程に進学するのは少数の選ばれし者…とと思っていました。企業に就職する気満々で、複数の企業の合同説明会へ…、が、すぐさま進路変更。お金より仕事の楽しさの話をして欲しかった…、ということで、これまた消去法的に博士課程進学を決意。博士課程に進むと就職が難しくなるという噂を聞いていましたが、女の子やし、最悪ダメでもなんとか生きていけるはず！と楽観的な気持ちでフワッと博士課程の進学を決意しました。

…が、またもやここで驚愕な事実が発覚。指導教官が他大学に異動するため、今のままでは、継続して研究することができないとのこと。せっかく、研究が楽しくなってきたとこなのに…「指導教官が異動する大学についていく」or「同じ大学内で現在の研究を続けられそうな研究室に移る」の二択に悩み、優柔不断な私には決められなかったもので、周りの意見に流されるように同じ大学のロボット系の研究室に移ることにしました。

博士号取得、そして結婚

画像処理系の研究室（ロボットビジョン含む）からロボット系の研究室への異動ということで、そこまで違和感はなく、すぐに馴染むことができました。研究テーマは変えずに何とか



長女（2ヵ月）、この頃から保育園に通いだし、まるまるむちむち！

3年で博士号を取得。…が、博士論文の執筆に必死になっていて、就活するのをすっかり忘れていました（計画性ゼロです）。急いで指導教官に相談に行くと、運良くポスドクの口があったため、無事社会人になれました。

無事就職先も決まりホッとしたところで、この研究室で知り合った現在の夫（同期）とめでたくゴールイン！（研究室を移って良かった）。子供の頃の予言通り、28歳でお嫁さんになりました。

出産

英語は苦手だけど、（いろんな国に行けるので）国際会議が大好きだった私、国際会議をハシゴ（オランダ→閑空→韓国）していたときに、韓国のホテルで急に吐き気が…、もしかして、昨日生肉を食べたから？と思ったのですが、つわりでした（笑）。

これまた予言通りに20代ギリギリで第一子を出産しました。予定日の次の日に生まれてきたのに、2552gの小さい女の子でした（私は12kgも太ったのになぜ…）。でも、たくさんミルクを飲んで、ひたすら寝て、を繰り返して、生後2ヵ月頃にはすっかりまるまるむちむちになってしまいました。

仕事か家庭か

私の母親が専業主婦だったこともあって、小さい子供を保育園に預けるのは可哀想とか、鍵っ子の小学生は可哀想とか、正直そう思っていました。ですが、今は任期付きポスドクという



長女（2歳）、次女（2ヵ月）、次女も保育園デビューです。仲良し姉妹！

不安定な職、育休を1年取ると任期が終わってしまいます。「仕事をやめて専業主婦になる」or「バリバリ仕事を続ける」の二択に悩みました。仕事が家庭か…どちらが大切か…家庭はものすごく大切、小さい頃から夢に描いていたし。でも、仕事も楽しい、博士号まで取ったし。悩んだあげく、どちらかに決めるなんてできない、ということで、貪欲にどちらも求めることにしました。仕事をしながら、家庭も全力で守る！きつとなんとかかなはず。なんとかならなかったら、そのとき考えよう。

というわけで保育園探しです。最近では入れる保育園を探すのが大変と聞いていたのですが、なんと運が良いことに、産後2ヵ月頃に大学内に新しい保育園ができました。さっそく申し込み。0歳児の定員が10名のところ、初年度は3-5歳児がかなり定員割れということで、特別に20名受け入れてくれ、待機児童にならずにすみました。

仕事と家事と子育てと

職場から目と鼻の先（100mくらい？）に保育園があり、1日2回授乳に通いました。おかげさまで完全母乳で育てることができました。職場の上司も育児に理解がある方で、打ち合わせ中でも授乳の時間になると「そろそろ時間じゃないですか」と言って保育園に送り出してくれ、非常にありがたかったです。娘もおっぱいを飲んだらすぐに寝て、ちょうど次の授乳の頃に目覚める、という生活だったので、家にいても保育園にいても接している時



長女（5歳）、次女（3歳）。ここまで大きくなりました。我が子ながらかわいい！

間はあまり変わらないのでは？と思いました。

娘と常に一緒にいたいと思う反面、少し離れる時間があるからこそ一緒にいる時間を大切にできるし、心にもゆとりが生まれる気がします。育児で困ったときも、保育士さんや保育園の他のお母さん方に相談できるのは、かなり心強い！一人でかかえるのではなく、みんなの力を借りて子育てできるホントに素敵な環境だなと思いました。しかも小さい頃から他のお友達と触れ合うことで、社会性や社交性が見について、早くから保育園に預けるのも結構メリットが多いかと思いました。

主人は同じ大学勤務の同業者、裁量労働制なため、時間に融通が効きます。毎日、夕方の6時に一緒に保育園にお迎えに行き、一緒に帰宅、晩ごはんは家族全員で食べます。忙しいときは食後にまた仕事に出かけてしまいますが、毎日一緒にご飯を食べられるのは嬉しい！子供が病気で休みのときは、前半・後半で仕事・看病を交代しています。出張も他の先生方に代わってもらったり、職場の理解とサポートがあり、ホントに助かっています。

家事は…、正直手を抜いています。ごめんなさい。完璧を求め無理をして

余裕がなくなるより、ちょっと手を抜いて心に余裕がある方が、きっとみんな幸せになれるはず。「親がしっかりしていない方が子供はしっかり育つ」という持論のもと子育てしています（子供に育てられているのかも）。

出産（二人目）

みんなに助けられて楽しく子育てと仕事を両立できていたので、二人目も出産しちゃいました。二人目も女の子です。次女は長女よりもさらによく寝る娘で、おっぱいを飲んで、5～6時間寝る、あまり手がかからない親孝行な娘でした。次女のときは、迷わず同じ保育園へ！3月3日生まれで、ちょうど春からの募集に間に合い、運良く無事入園できました。お姉ちゃんも一緒に安心だし、素敵な環境でのびのび成長中です！

私の子供の頃の予言では子供は3人生むことになっているし、そろそろ3人目もほしいなー（次は男の子がいいなー）、と思っています！

仕事の話も少し

子育てしながらの仕事、やはり男性のように120%バリバリ働くというわけにはいきません。職がかなり不安定なときに出産したため、就活はそれなりに大変でした。遠くに異動したくないし、全力で就活するのも大変、ということで、その場しのぎで、同じ大学内で任期付き（2年）のポストを渡り歩いていた。

でも、異動が多いのもそんなに悪くありません。基本的に研究内容にそこまでこだわりがない私（研究者に向いていない？）、いろいろな研究に触れることができ、新しい発見も多く、知り合いも増え、なかなか楽しく研究す

ることができました。今までの研究の一貫性はあまりないのですが、大まかには、いろんなセンサ（カメラ等）で取った人間の情報から人の状態（移動方向、同じ人か否か、性別、年齢、疲労状態、気持ちなど）を推定するという研究をしてきました。

子供は本能的で人間の本質が詰まっているため、「人間を知る」研究において、子供の行動や言動が参考になることも多いです。

現在は運良く少し安定した職に就くことができ、ちょっとホッとしています。これからも初心を忘れず、ワクワクしながらお仕事ができればいいな、と思っています。

リケジョを目指すみなさんへ

リケジョと聞くと、バリバリなできる女をイメージするかもしれませんが、リケジョも普通の女性です。文系・理系の違いなんて、そんなにないと思います。数学が苦手なリケジョ（私？）もいれば、理論的ではないリケジョ（私？）もいます。理系に進むと仕事が大変だからとか、理系でやっていけるか不安とか考えずに、なんとなく好きかも、という小さなトキメキを大切に、なんとなくリケジョになってみるというのも全然アリだと思います。心がときめく道を選んでいけば、それが正しい道だと思います。

なんでもできる！
なんでもなれる！
輝く未来を抱きしめて！
フレッフレッツ、みんなー！
フレッフレッツ、わたしー！

↑娘たちがハマっているプリキュアのセリフです。

（2018年3月30日受付）